

令和 3 年 6 月 19 日現在

機関番号：32606
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2016～2020
 課題番号：16K16807
 研究課題名（和文）16世紀フランス歴史記述論における、前二世紀-二世紀のギリシャ語著作家の影響

研究課題名（英文）Influence of Greek historians of 2nd BC- 2nd AD centuries on 16th century French historiography

研究代表者
 志々見 剛（SHISHIMI, Tsuyoshi）
 学習院大学・文学部・准教授

研究者番号：40738069
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）： 第一に、歴史記述論を扱うボードワンやボダン、ラ・ポプリニエの著作を主な対象として、ポリュビオスやハリカルナスのディオニシウスなどのギリシャ歴史家がどのように扱われているかを分析した。
 これに加えて、モンテーニュなど、歴史を専門とするわけではない著者の作品においても、歴史をめぐる同時代の議論がいかに反映されているかを検討した。
 さらに、トゥキュディデスをめぐる古代の議論（ルキアノス、ハリカルナスのディオニシウス、キケロなど）が、16世紀の新しい文脈の中で、どのように取り上げられているかを考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ルネサンスの歴史記述論は、狭義の文学研究にとどまらず、修辞学、文献学、道徳哲学、政治学、神学など、さまざまな隣接する分野との相互的な影響のもとに、初めて成り立つものである。本研究では、こうした連関の一端を示すことができた。
 また、宗教戦争やそれに伴う王権の動揺といった新たな問題に直面したそれぞれの著作家たちが、いかに過去の文化的な遺産にさかのぼって、課題を再設定し、その解決を模索したかということは、おそらく現代の問題にも示唆を与えうるものに相違ない。

研究成果の概要（英文）： We researched on 1) influence of Greek historians (especially, Polybius and Dionysius of Halicarnassus) on the historiographical works of Francois Bauduin, Jean Bodin and La Popeliniere.
 2) reflections of contemporary historiographical theories in non-specialist authors such as Montaigne.
 3) reappearance of ancient debates concerning Thucydides (Lucian of Samosata, Dionysius of Halicarnassus, Cicero, etc.) in the 16th century.

研究分野： 仏文学

キーワード： 歴史記述論 ルネサンス フランス

1. 研究開始当初の背景

16 世紀の後半、フランスの法曹知識人たちによって数多著された歴史に関する著作は、ヨーロッパの歴史記述論の劃期をなすと位置付けられてきた。これについては、イタリアに発した人文主義の西漸、ローマ法研究におけるいわゆる「フランス派 *mos gallicus*」、宗教戦争を背景とした王統や国家、宗教の過去への関心など、様々な要因が指摘されてきた。

ただ、これを単に後代の実証主義的な歴史観の先蹤としてとらえるのは、時代錯誤である。

むしろ、同時代の知的・文化的な文脈においてとらえなおす必要があった。とりわけ、これがイタリアの人文主義者たちによる歴史の実作や理論に典型的な、古代ローマのケケロやティトゥス・リウィウスを範とした歴史記述論、あるいは、アウグスティヌスやエウセビオスの再生と目される改革派(特にルター派)の歴史論といかにして、そしてどの程度に特異なのか、あるいは共通する点を持つのかについては、なお説明すべき余地が残されていた。

2. 研究の目的

本研究は、16 世紀後半のフランスの歴史記述論において、前二世紀-二世紀のギリシャ語著作家の受容がどのような影響を与えたかを検討するものであった。とりわけ、ポリュビオス、シチリアのディオドロス、ハリカルナスのディオニシウスなどの歴史書や歴史論、あるいはルキアノスの「歴史をいかに書くか」や「真実の話」といった著作は、実際に言及されることも多く、ラテン語やフランス語の翻訳も含め、大きな影響を与えたと考えられる。

これを 16 世紀フランスの具体的な著作家について、あるいは何らかの古典作家の受容を通して検討すること、そしてそれを通じて、16 世紀フランスの歴史記述論の特徴を明らかにすること、これが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

16 世紀フランスの具体的な著作の綿密な読解が、すべての土台となる。これについては、近代版が存在しないような著作もままある。

フランソワ・ボードワンやジャン・ボダン、アンリ・ランスロ・ド・ラ・ポプリニエなどによる歴史というものへの理論的な考察に加えて、歴史や歴史論の動向に関心を寄せる同時代の著作家たち(例えばトゥルネブス、モンテーニュなど)にも目を配る必要がある。また、古代の歴史家の著作の校訂版や翻訳は、それ自体として受容のあり方を示す指標となるだけでなく、しばしば付される序文類は、やはり歴史をめぐる理論的なテキストとして貴重である。

このような多様なテキストをもとに、一方では、個々のテキストにおける歴史論の分析を、他方では、複数のテキストを通覧して何らかの古代の著作の受容の異同の検討を、展開していくこととなる。

4. 研究成果

歴史記述論に該当する著作としては、ボードワンの『全体史教程、並びにその法学との結合について *De institutione historiae universae et ejus cum jurisprudentia conjunctione*』(1561) やボダンの『歴史を容易に理解するための方法 *Methodus ad facilem historiarum cognitione*』(1566)、ラ・ポプリニエ『歴史の歴史 *Histoire des histoires*』(1599)などを主な研究対象とし、それぞれ分析を行った。とりわけ、先行研究の乏しいボードワンについては、独立した論文を執筆し、ポリュビオスの『歴史』に想を得た「全体史」、「実践史」といった概念が変奏されていること、ルター派の歴史論にも影響を受けていることを明らかにした。

また、狭い意味での歴史記述論にとどまらず、同時代のこうした潮流に強い関心を抱き、またその中で独自の立場を占めることになった、アンリ・エチエンヌやモンテーニュについても、歴史論とのつながりという観点から、検討を行った。とくにモンテーニュについては、ボダンをはじめとする同時代の歴史記述論や、ボダンが歴史と不即不離の分野とした世界地誌の類との関係も含めて、分析した。

さらに、古代において歴史を論じるうえで既に大きな問題となっていたトゥキュディデスについての議論（ならびに、トゥキュディデスとしばしば対照されるものとしてのヘロドトスに関する議論）が、16世紀の新たな問題意識の中で、いかにして再び脚光を浴びることになったかを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 志々見剛	4. 巻 XXXII
2. 論文標題 16世紀後半のフランスの歴史論におけるトゥキュディデス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ロンサル研究』	6. 最初と最後の頁 89-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志々見剛	4. 巻 49
2. 論文標題 「信じやすい」モンテーニュ...? 『エッセー』における世界地誌的知識	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『仏語仏文学研究』	6. 最初と最後の頁 49-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志々見剛	4. 巻 93
2. 論文標題 フランソワ・ボードワン（1520-73） 歴史と法学の結合	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『桜文論叢』	6. 最初と最後の頁 109-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志々見剛	4. 巻 22号
2. 論文標題 「真実、信じられること、可能なこと - 16世紀の歴史論とモンテーニュ」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『フランス哲学・思想研究』	6. 最初と最後の頁 16-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 志々見剛
2. 発表標題 真実、信じられること、可能なこと 16世紀の歴史論とモンテーニュ
3. 学会等名 日仏哲学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------